



Title	The parallel vasion of the polynomial invariants of links
Author(s)	村上, 順
Citation	大阪大学, 1989, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/386
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【9】

氏名・(本籍)	むら 村	かみ 上	じゅん 順
学位の種類	理	学	博
学位記番号	第	8766	号
学位授与の日付	平成元年6月16日		
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当		
学位論文題目	The parallel version of the polynomial invariants of links (リンクの多項式不变量の平行化)		
論文審査委員	(主査) 教授 尾関 英樹		
	(副査) 教授 村上 信吾 教授 宮西 正宜 教授 川中 宣明		

論文内容の要旨

向きのついた S^1 のいくつかの直和から S^3 への連続写像の像を絡み目という。絡み目の集合に S^3 中の連続な変形で互いに移り合うという同値関係をいれ、これによる同値類を絡み目型といふ。絡み目型の集合を L とする。 L からある集合 S への写像を S に値をとる絡み目の不变量と呼ぶ。これまで絡み目の不变量の中でも Alexander 多項式がよく研究されてきたが、近年、Jones 多項式の発見を契機として二変数 Jones 多項式や Kauffman 多項式といった新しい絡み目型の不变量がみつかり研究されている。

一方任意の絡み目は組み紐の上下の対応する点をつなぐことによってえられることが知られている。 B_n により n 本の紐からなる組み紐群をあらわし、 $\sigma_1, \sigma_2, \dots, \sigma_{n-1}$ を B_n の標準的な生成元とする。また、 B_n^\wedge により群 B_n の既約指標の全体をあらわす。 X を上で述べた不变量の一つとすると、 X はある環 R_x に値をとる。 K を B_n の元 b の上下をつないでできた絡み目とすると B_n^\wedge のある有限部分集合 $B_n^\wedge(X)$ と R_x の商体の元 $a(\chi)$ (χ は $B_n^\wedge(X)$ の元) が存在して、

$$X(K) = \Sigma \quad a(\chi) \chi(b) \quad (*)$$

$$\chi \in B_n^\wedge(X)$$

と書ける。

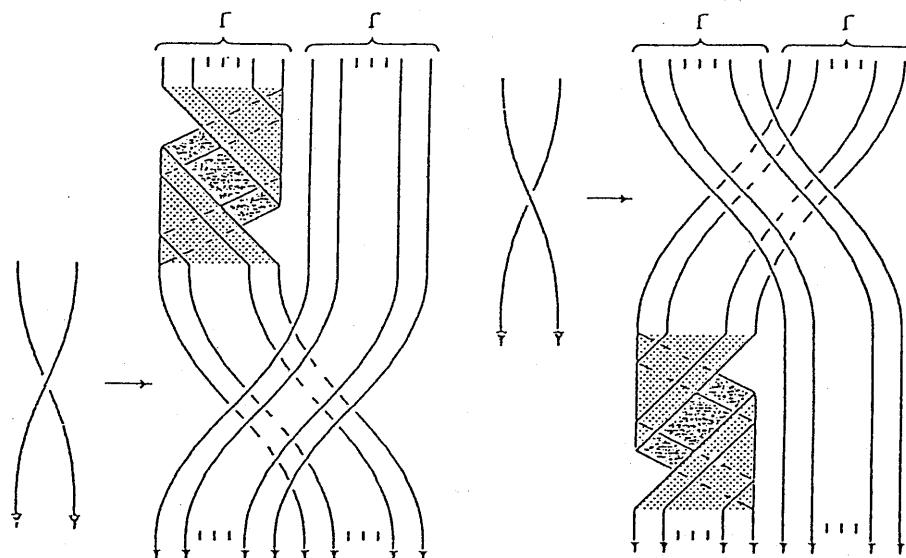
この論文の目的は絡み目の不变量の r 重平行化について組み紐群の表現を使って調べることである。主な結果を述べる前に r 重平行化を定義しよう。正の整数 r をひとつ固定する。まず組み紐 b に対しその r 重平行化を定義しよう。組み紐は生成元 $\sigma_1, \sigma_2, \dots, \sigma_{n-1}$ をつないであらわされる。これらを図 1 のように置き換えてえられる組み紐を b の r 重平行化と呼び $b^{(r)}$ とかく。

$K^{(r)}$ の絡み目型は K の射影図のとりかたによらない。絡み目型の不变量 $X : L \rightarrow C$ に対しその r 重平

行化 $X^{(r)}$ を次で定める。Kを絡み目とするとき

$$X^{(r)}(K) = X(K^{(r)}) \quad (**)$$

とおく。 $X^{(r)}$ もまたリンクの不变量である。Morton-Short 及び Yamada により Jones 多項式は等しいがその2重平行化が異なる絡み目の組が見つけられた。さらに Morton-Traczyk やこの論文での例によりいくつかの mutant な結び目が二変数 Jones 多項式の3重平行化で区別されることがわかった。異なるが互いに mutant な結び目を区別するためには今まででは発見的方法に頼っていたが、平行化を使うことによりかなりのものが機械的に区別できるようになった。



この論文では (*) のように書ける不变量 X の平行化について表現論的立場から調べている。目標は X の r 重平行化 $X^{(r)}$ を計算するための有効な方法を与えることである。絡み目 K に対し $X^{(r)}(K)$ を定義からそのまま計算することは不可能ではない。しかしそのためには必要となる組み紐群の指標の次数は小さな r に対してすらかなり大きくなる。この論文では $X^{(r)}$ を計算するために必要となる組み紐群の指標の次数が小さくできることをいう。例えば4本の紐を持つ組み紐の上下を結んでできる絡み目の Jones 多項式の4重平行化を計算するとき、直接式 (*) を用いると組み紐群 B_4 の3640次元の表現を計算する必要があるが、この論文での方法を使えば5次以下の表現を計算すればよいことがわかる。

絡み目型の不变量の r 重平行化を表現論的に調べたことの応用として不变量 X の r 重平行化 $X^{(r)}$ がいくつかの絡み目型の不变量の一次結合になることがわかる。そして、これらの不变量を用いてケーブルリンクの不变量を計算する公式を得た。なお一変数 Jones 多項式や Kauffman 多項式については、サテライトリンクの不变量を計算するための公式も得た。

論文の審査結果の要旨

ひもの結び目・絡み目の研究においては、絡み目（リンク）に対し、連続変形で不変な量を定義し、これを具体的に求めるのが重要な課題である。Jones 多項式を始めとする新しい不変量の発見や、他分野での関連した研究の発展にともない、この問題の研究は現在極めて活発に行われつつある。

リンクは組み紐（ブレイド）の上下をつないでも得られる。n 本の組み紐の全体は n 次組み紐群 B_n を作る。これまでの不変量は群 B_n の既約指標と密接に関連している。一方、リンクに対し、これを帶状化して、r 重平行化のリンクが得られる。平行化により初めて判別出来る結び目の例が発見され、リンクの平行化が重要となって来た。

村上君は表現論の立場から、リンクの多項式不変量の r 重平行化を考察し、基本分解公式を発見し、この理論の新たな展開を与えた。

リンクの不変量 X でトレース・タイプのものをとる。リンク K に対応する組み紐 b が n次のとき、X(K) は群 B_n の既約指標が b でとる値の有限 1 次結合の形となる : $X(K) = \sum a(\chi) \chi(b)$ 。リンク K の r 重平行化 $K^{(r)}$ に対応し、組み紐 b の平行化 $b^{(r)}$ が B_{rn} の元として与えられる。不変量 X の平行化 X_r が $X_r(K) = X(K^{(r)}) = \sum a(\chi) \chi(b^{(r)})$ で定められ、再びトレース・タイプとなる。これは群 B_{rn} の既約指標 χ が $b^{(r)}$ でとる値 $\chi(b^{(r)})$ の有限 1 次結合の形となるが、ここに現れる表現の次数は r の増大とともに一般に極めて高いものとなる。

村上君はその基本定理で、K が結び目のとき、 $\chi(b^{(r)})$ の値は群 B_n の有限個の既約指標 χ_j の b での値に帰着されること : $\chi(b^{(r)}) = \sum d_j \cdot \chi_j(b)$ を示した。又、この定理をもとに、不変量の平行化的分解を与え、新たな不変量を得た。さらに、r = 2, 3 に対し、より精密な分解式を示した。具体的な応用として、2 变数 Jones 多項式の 3 重平行化で初めて判別出来る 1 群の結び目の例を示した。

以上述べた様に、村上君の研究はリンクの多項式不変量の平行化の基本的分解公式を示し、多くの重要な応用を与えたもので、この方面の研究に寄与する所大であり、よって理学博士の学位論文として十分価値あるものと認める。